## 希薄窒化 GaAs と InAs 量子ドットのトンネル結合構造におけるスピンダイナミクス Spin dynamics in tunnel-coupled structure of dilute nitride GaAs and InAs quantum dots

北大院情報科学 <sup>0</sup>佐藤紫乃,中村裕人,朴昭暎,樋浦諭志,高山純一,村山明宏

Faculty of Information Science and Technology, Hokkaido Univ.

 $^\circ S.$  Sato, Y. Nakamura, S. Park, S. Hiura, J. Takayama, and A. Murayama

## E-mail: sshino@eis.hokudai.ac.jp

Ⅲ-V族半導体量子ドット(QD)は,発光デバイスとして優れた 光学特性[1]を有すると同時に、三次元量子閉じ込め効果により キャリアのスピン緩和を大きく抑制できることが知られており [2]、電子のスピン偏極を光の円偏光に変換するスピン機能光デ バイスの光学活性層への応用が期待されている.しかし,室温 では QD に閉じ込められたキャリアが周囲のバリアに熱励起さ れ, D'yakonov-Perel'機構によりスピン偏極が緩和したキャリア が QD へと再注入することで、QD における電子のスピン偏極 度が低下するという課題がある[3,4]. そこで,室温でのQDの スピン偏極度を向上させるため、希薄窒化ガリウムヒ素(GaNAs) のスピンフィルタリング効果に着目した. GaNAs では, Ga 原子 空孔に起因した深い局在準位がバンドギャップ内に形成され, 伝導帯の少数個スピンを効率的に捕獲し、室温で伝導電子のス ピン偏極が増幅される[5].本研究では、室温でスピンフィルタ リング層として機能する GaNAs を QD 発光層とトンネル結合さ せ、QDに注入する電子のスピン偏極を高めることで QDの室温 での発光円偏光度(CPD)の向上を図った.

InAs QD と GaNAs が GaAs バリアを介してトンネル結合した 試料を,高周波窒素プラズマ支援分子線エピタキシーにより作 製した.トンネルバリア厚 d は 3 nm と 10 nm とした. 試料表面 に成長した QD の構造評価により,QD 面内密度は 2.5 × 10<sup>10</sup> cm<sup>-2</sup> と推定された.光スピン特性は,円偏光時間分解 Photoluminescence(PL)を用いて評価した.発光の CPD は,励起 レーザーと同じ円偏光を持つ PL 強度 $I_{\sigma+}$ と反対の円偏光を持つ PL 強度 $I_{\sigma-}$ を用いて, CPD =  $(I_{\sigma+} - I_{\sigma-})/(I_{\sigma+} + I_{\sigma-})$ と定義される.図 2 に d = 3, 10 nm の各試料において室温で取得した円偏光 PL ス ペクトルと発光の CPD を示す. 1.25 eV のピークは GaNAs の発 光,低エネルギー側のピークは InAs QD の発光である.d = 3 nm の試料において,最大 30%の CPD を観測し,d = 10 nm の試料 より高くなった.これは,GaNAs と QD が強く結合することで,



Fig. 1 Schematic of InAs QD–GaNAs tunnel-coupled structure. The red and purple arrows indicate excitation and emission light, respectively.



Fig. 2 Circularly polarized PL spectra of InAs QD–GaNAs tunnel-coupled samples with GaAs tunnel barrier thicknesses of (a) 3 nm and (b) 10 nm at room temperature.

GaNAs でスピン偏極が高められた電子が QD に高効率にトンネル注入するだけでなく, InAs QD から GaNAs へ少数個スピンが選択的に移動・除去されたためであることを明らかにした[6].

## References:

- [1] Y. Yang et al., Nat. Photonics 9, 259 (2015). [2] M. Paillard et al., Phys. Rev. Lett. 86, 1634 (2001).
- [3] S. Hiura et al., Phys. Rev. Appl. 14, 044011 (2020). [4] S. Sato et al., J. Appl. Phys. 127, 043904 (2020).
- [5] X. J. Wang et al., Nat. Mater. 8, 198 (2009). [6] Y. Huang et al., Nat. Photonics 15, 475 (2021).